

病害虫名		防除時期	使用農薬名 (収穫前使用時期・総使用回数)		防除方法										注意事項	
もみ枯細菌病 ばか苗病 いもち病		種子消毒 (浸種前)	テクリードCフロアブル(1回)		200倍液に24時間浸漬する。										●ごま葉枯病、褐条病にも適用する。浸漬中は時々攪拌し、液温(水温)10℃以上とする。 ●消毒後は水洗いせず浸種する。陰干しで乾かしてから浸種してもよい。 ●種籾1kgに対し薬液1.7ℓで処理する。残液は毒性が強いので、適正な処理をする。 ● スポルタックスターナSEは「ばか苗病」で抵抗性病菌がでているので使用を避ける。	
苗立枯病		は種当日	タチガレエースM粉剤(1回)		育苗箱の床土5ℓ当り6～8gを混和する。										・薬量が多いと生育に害が出る。5日以上 の事前使用は効果落ちるため、は種当日の混和を基本とする。細菌性の病害の恐れがある場合は、カスミン液剤を覆土前に4倍液を散布(50ml/箱)する。	
イネミズノウムシ イネドロオウムシ ニカメイチュウ イネツトムシ イナゴ ツマグロヨコバイ 葉いもち		育苗箱施薬 (ば種前・ば種時 (覆土前)～ 移植当日)	対象病害虫		施薬量 1箱当り	イネミズ ノウムシ	イネドロ オウムシ	ニカメイチュウ 第1世代 第2世代		イネツ トムシ	イナゴ	フタオビ コヤガ	ツマグロ ヨコバイ	いもち病	●移植当日散布する場合は、軟弱徒長苗、ムレ苗には使用はさける。また苗箱の上から均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落として使用する。散布後長く放置すると薬害が出るので、できるだけ早く植え付ける。 ●ルーチンデュオ箱粒剤・パディート箱粒剤はニカメイチュウの第2世代までの防除を省略することができ、イネツトムシ、フタオビコヤガ(イネアオムシ)にも有効である。 ●ルーチンデュオ箱粒剤は葉いもちの他、内稃褐変病、もみ枯細菌病(苗腐敗症)に対しても有効である。 ●ルーチンデュオ箱粒剤は黄萎病を媒介するツマグロヨコバイにも効果がある。 ●播種前(床土混和处理)、播種時(播種後覆土前)の施用は、ルーチンデュオ箱粒剤及びパディート箱粒剤を育苗箱1箱当り50g使用する。	
			ルーチンデュオ箱粒剤 (1回)		50g	○	○	○	○	○	○	○	○			
			パディート箱粒剤 (1回)		50g	○	○	○	○	○	○	○				
ニカメイ チュウ	一世代 のみ	6月中旬～下旬	なげこみトレボン (収穫21日前まで、3回以内) (但し5葉期以降)		なげこみトレボン10a当り水溶性容器10個(500ml) スミチオン乳剤1000～2000倍液 10a当り 60～150ℓ散布										●手植え及び育苗箱施薬しない場合に使用する。 ●葉鞘変色を確認した時に散布する。 ●なげこみトレボンは、水溶性容器のまま圃場全体に均等に投げ込む。また濡れた手で作業しない。 ●なげこみトレボンはイネミズノウムシ、イネドロオウムシ、イナゴ類にも有効である。また、湛水状態で散布し、散布後7日間は落水、水のかけ流しをしない。	
	一世代 二世代	7月下旬～8月上旬	スミチオン乳剤(収穫21日前まで、2回以内)		スミチオン乳剤 800～1000倍液 10a当り 60～150ℓ散布											
いもち 病	即効 タイプ	葉いもち (発病直後) 穂・節いもち 穂ばらみ期 出穂期	ブラシン粉剤DL(収穫7日前まで、2回以内) ブラシンフロアブル(収穫7日前まで、2回以内)		● いもち病は発生前の予防散布を基本とする。 発生後の散布では効果が期待できない。 ● 予防タイプの散布適期を過ぎた場合は、即効タイプの薬剤を使う。 粉剤は10a当り 3～4kg 散布 フロアブル剤は1000倍液を10a当り100～150ℓ散布 コラトップジャンボPは10a当り10～13パック(500～650g)を畦畔から均等に投げ入れる。 コラトップ粒剤5 10a当り3～4kg 散布 オリブライト1kg粒剤 10a当り1kg 散布										●葉いもち病は発見しだい薬剤散布し、穂・節いもち病は予防的に散布する。粒剤は散布時期を的確に守り、水深3cm以上で散布し、散布後3～4日湛水する。漏水田は効果がおちる。 ●同一薬剤の連続使用をさけ、他剤との輪用を図る。 ●ブラシン粉剤、フロアブル剤は内稃褐変病、もみ枯細菌病に有効である。 ●粒剤は予防的に散布した場合に有効である。ただし、オリブライト1kg粒剤は予防だけでなく発病10日後まで効果がある。散布後、褐色の斑点が葉に現われることがあるが収量に影響はない。 ●ジャンボ剤は藻の発生の多い水田、不正形の水田には効果が劣る。 ●コラトップ粒剤・ジャンボ剤は穂いもち病に対し出穂30～5日前までに散布する。 ●オリブライト1kg粒剤は紋枯病にも有効であるが、耐性菌回避のため、種籾ほ場での使用避ける。	
	予防 タイプ	葉いもち (初発前10日) 穂・節いもち (出穂前20日)	コラトップ粒剤5・コラトップジャンボP(2回以内) オリブライト粒剤(出穂10日前まで、但し収穫45日前まで、1回)													
紋枯病		病状進展初期 ～出穂期	バリダシン粉剤DL(収穫14日前まで、5回以内) リンバー粒剤(収穫30日前まで、2回以内)		バリダシン粉剤DL 10a当り 3～4kg 散布 リンバー粒剤 10a当り 3～4kg 散布										●バリダシン粉剤DLは発病初期(穂ばらみ期～出穂期)に株元によく付着するように散布する。 ●リンバー粒剤は出穂14～10日前に散布する。散布時は水深3cm以上、3～4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしない。	
同時防除薬剤		7月下旬～ 8月上旬	対象病害虫		10a当り 散布量	いもち病	紋枯病	ニカメイ チュウ	イネツト ムシ	ウンカ類		ツマグロ ヨコバイ	カメムシ類	●いずれか選択して使用する。 ●使用方法及び注意事項の説明書をよく読んで、正しく使用する。 ● *1 コラトップトレボン粒剤はイナゴ類にも有効(4kg散布)、ニカメイチュウは第1世代に有効(4kg散布) ● *2 バリダシン粉剤DLはカメムシ類に対しては10a当り4kg散布		
			コラトップトレボン粒剤(出穂5日前まで、2回以内)		3～4kg	○		*1○		○		○				
			バリダシン粉剤DL(収穫21日前まで、3回以内)		3～4kg	○	○	○	○	○		○	*2○			
害虫名	防除時期	使用農薬名		対象害虫	10a当り 散布量	カメムシ 類	イネツト ムシ	ウンカ類		ツマグロ ヨコバイ	フタオビ コヤガ	イナゴ類		●カメムシは本田内への侵入を防ぐため、出穂2週間前までに畦畔雑草の草刈りを行い、遅れた場合は実施しない。北部・山沿いの「あきたこまち」「酒米」は特に注意する。 ●カメムシ対策でスタークル豆つぶを湛水散布する場合は 出穂後7～10日に散布 ●カメムシの発生の多い場合は、スミチオン乳剤、MR. ジョーカー粉剤DLのいずれかを散布する。 ●*1MR. ジョーカー粉剤 DL はイネツトムシに対しては4kg、フタオビコヤガに対しては3kg、その他害虫に対しては3～4kg散布する。 ●*2 スミチオン乳剤はフタオビコヤガに対しては2000～4000倍、その他害虫に対しては1000倍で散布する。(10a当り60～150ℓ) ●ウンカは出穂初期に被害があるため、8月上中旬に水田内部の株元を調べ、発生程度を確認して散布する。 ●MR. ジョーカー粉剤Dは、イナゴ・クサキリ類には中令期以降でも効果があるが、幼虫初期に畦際のイネを重点に散布すると更に効果が高い。 ●イネツトムシの発生の多い場合は、パダンSG水溶剤またはMR. ジョーカー粉剤DLを散布する。		
カメムシ、 ウンカ、ヨコバイ	8月上旬～中旬	スタークル豆つぶ		スタークル豆つぶ (収穫7日前まで、3回以内)	250g	○		○		○						
	8月中旬～下旬	MR. ジョーカー粉剤DL		スミチオン乳剤 1000倍 (収穫21日前まで、2回以内)	60～ 150ℓ	○	○				*2○					
スミチオン乳剤																
イネツトムシ フタオビコヤガ(イネアムシ)	7月中旬～8月上旬	MR. ジョーカー粉剤DL		パダン SG 水溶剤 1,500倍 (収穫21日前まで、6回以内)	60～ 150ℓ		○									
	7月下旬～8月中旬	パダン SG 水溶剤														
イナゴ、 クサキリ類	6月下旬～7月下旬	MR. ジョーカー粉剤DL		MR. ジョーカー粉剤DL (収穫7日前まで、2回以内)	3～ 4kg	○	*1○ 4kg	○		○	*1○ 3kg	○				